

あさひかわ経済
ウォッチ 15

15

活用が進む生成AI

ではないよう
に思います。

試行・利用を検討してい

といった「文書の校正・添削・評価」などが挙げられる。

スクもあります。

速に進むなか、リスクの変化に応じて、社内のル

あさひかわ経済
ウォッチ 15

[View Details](#) [View Details](#) [View Details](#)

活用が進む生

成AIIに用
日本銀行で
関における生成
用動向について
ト調査を実施
トとして先月
した。大手行や
信金二つとも

は、金融機
成A-Iの利
アンケー
し、レポー
、公表しま
地域銀行、

試行・利用を検討していく先を含めると、約8割の先が活用を進めようとしており、生成AIの利用が急速に広まっていることがわかります。これを業態別にみると、利用中または試行中の回答

削・評価」などが挙げられます。また、もう一つの代表的な分野は、システム開発・運行管理です。コンピューターに指示・命令を与えるためのコードの記述や設計書の確認(記載間違、等の自動検査)

この点、生成AIの管理状況をみると、7割前後の先がシステム環境を整備しており、具体的には、クラウドにおける自社専用区画の利用や生成AIによる入力内容の再利用等を行なう社員を算

変化に応じて、社内のルールを継続的に見直していくことが重要です。

先週旭川では本格的な積雪となり、自動車の運転には一段と注意を要する季節が到来しました。歩行者の立場でもとりわけ雪道における自動車の挙動は気になります。そういうえば、筆者が小学生の頃、校舎に「車社会／歩くあなたも／そのひとり」という交通標語が掲示されていました。自分は運転していなくとも、車と無関係ではないというわけです。

どを通じて、誰しもかそ
の恩恵やリスクに直面し
うるという意味で、AI
と無関係とは言い切れな
くなっています。例えば、
パリ・オリンピックもA
Iが編集した競技ハイラ
イトを楽しむことができ
るようになりました。

さて、そうした生成AI
ですが、ビジネスの現
場ではどの程度活用され
ているのでしょうか。企
業等における活用事例が
しばしば報道されますが、
全体像の把握は簡単

対象とする調査ではあります、利用状況や導入目的、さらにはリスク管理など、具体的な内容が含まれていますので、その一部をご紹介したいと思います。

まず、金融機関における生成AIの利用状況です。調査対象155先のうち、現状、約3割の先が既に利用しています。試行中の先も約3割あり、両者を合わせると約6割の先が何らかのかたちで生成AIの利用を進めて

た先は大手行では全
地域銀行・信用金庫では
約5割の先に上ります。
次に、導入目的です。利
用申込または試行中と回答
したほぼ全ての金融機関
が「業務効率化／コスト
削減」を指摘しています。
代表的な利用分野の1つ
は、文書作成の補助です。
具体的には、顧客との面
談記録やマーケット情報
等の「文書の要約」のほ
か、作成した報告書等の
正確性確認や誤字脱字の
添削、リーガルチェック

(過去の類似事例の抽出など)が挙げられています。一方で、リスクに対する認識も重要です。例えば、生成AIはクラウド上でサービス提供が一般的であり、意図せぬ形で情報が流出してしまう可能性があります。また、生成AIが事実と異なることをもつともらしく回答するリスクのほか、権利侵害や倫理上問題のある情報の生成といったり

機密情報の入力は禁止するといった制限も設けられています。一方で、社内規程や実務ルールの整備などについては、5割程度の先が「改善の余地がある」または「検討中」と回答しています。生成AIに関する技術革新が急速に進んでいます。

なでくると思います。ただ、冒頭の標語ではありませんが、生成AIが普及する社会では、誰しもが恩恵やリスクに直面する可能性があるだけに、双方を十分に認識して使っていきたいものです。



足立祐（あだち・ゆういち）一九七三年、大分県出身。九州大学経済学部卒。金融市場企画役、国際局企画役、ドイツ・フランクフルト事務所長、調査統計局地域経済調査課長を経て、二〇〇三年、旭川事務所長に就任。